

ボート体験教室

—香川からのオリンピック選手輩出を目指して—

代表者 溝 渕 久 哲 (工学研究科信頼性情報システム工学専攻1年)

1. 目的と概要

本プロジェクトは、香川県出身のボート競技者を増加させることを目的として、ボート部が実施しました。県内の小学生から高校生を対象とした、90分のボートを体験してもらいイベントを開催しました。早い時期からボートを知ること、大学に入ってからボートを始めようとするきっかけに繋がり、結果的に香川県出身者のボート人口の増加が期待できます。2020年の東京オリンピックをはじめとした、国際大会で活躍できる選手を香川から輩出することを最終的な目標としました。ボート競技である理由としては、ボート競技がマイナーであるため、認知度の向上が競技人口の増加につながりやすいと考えたこと、競技人口が少ないため比較的上位に入りやすく、有力選手になりやすいといったことがあります。また自然の中で普段体験できない競技という特性から、レクリエーションのように幅広い人に興味を持ってもらえることが期待できます。

2. 実施期間（実施日）

平成27年6月19日 から 平成28年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

3.1 実施情報

体験教室を以下に示したとおりの内容で実施しました。

- ・ 日程：10/3 4回実施
- ・ 場所：府中湖(坂出市)
- ・ 内容：陸上にて漕ぎ方の説明や注意事項を説明した後、乗艇し実際に体験
- ・ 教室時間：各回90分程度
- ・ 参加人数：5名

3.2 周知方法と参加人数について

体験教室を対象となる方に周知するため、チラシを作成し配布しました。開催地近辺の学校に配布をお願いする形で、5000枚程度配布しました。またスマートフォンにも対応したホームページを開設し、申し込み自体はホームページを通じて行っていただ

きました。その結果小学生6名から申し込みがあり、欠席を除く5名に体験してもらうことができました。

この参加人数については、想定していたよりも多くの方に申し込んでいただいたが、配布した数の割には申込者が少なかったと考えています。少なかった原因としては以下の2点が考えられます。1点目は配布したチラシの全数が生徒の手に渡っていないと思われることです。教育委員会の後援などを受けていれば確実に配布していただけますが、今回本プロジェクトは後援を受けていませんでした。そのため各生徒への配布は、各学校の校長先生に任されることとなりました。2点目は、対象を高校生までとしていたため、チラシが堅い雰囲気のものを作成してしまったことです。実際に開催すると、参加者は全員小学生でした。そのため、楽しさを前面に出したチラシのデザインや、保護者向けに県や市の広報誌への掲載などの方法を取ることで、増加が見込めると考えています。全員が小学生になった原因として、中学生以上は土日も部活動がある場合が多い、好奇心が小学生のほうが旺盛であるなどの原因を考えていますが、中学生に対してアンケートなどは行えておらず原因の特定には至っていません。

香川県大学ボート部 香川県ボート協会 開催
府中湖 ボート体験教室

ボートとは About Boat | 体験教室について About Boat-Trial | お申し込み Registration | 参加者の方へ To participant | アクセス Access | 問い合わせ Contact

お知らせ

- 2015/08/12 ホームページを公開
- 2015/10/01 申し込み状況を反映しました
- 2015/10/04 10/11(日)の開催が決定しました

体験教室について

- ◇ 日程
- ◇ 申し込み
- ◇ その他
- ◇ 開催場所

ボート教室について

本ボート教室は、未来を担う若い方々に競技ボートを知っていただくことを目的に開催するものです。

小学5年生から高校生までを対象に、1日じっくりとボートを体験していただけます。経験者と一緒に乗艇しますので、未経験の方も安心して乗ることができます。普段体験する機会のないボートに乗ってみませんか。



参加費

参加費は無料です。

開催にあたり加入している保険料についても、こちらで負担いたします。

対象

小学5年生～高校生までを対象にしています。

日程

2015/10/7(土) 2015/10/11(日)の2日間 開催します

(開設したホームページ)

3.3 参加者からの意見

ボート体験教室終了後、参加者に対して口頭で感想を伺ったところ、「楽しかった」「またやってみたい」など、好評でした。特に好評だったのは、スタッフが漕いでスピードを出した際の体験でした。また改善点としては、体験の時間がもう少し長くても良かったという意見を頂きました。

そのため今後実施する場合は体験時間を長めにしつつ、スタッフが漕ぐ時間を増やす

のが、楽しさとしても参加者の体力面からも良いのではないかと考えています。



(ボート体験教室での乗艇の様子)

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、大学のキャンパス以外の地域でのイベント開催によって、より広い地域の方に香川大学について興味を持っていただき、また香川大学生が主体となって活動を起こしているということを知っていただけたと思います。

また地域社会の方々には、特に参加していただいた方を中心に、ボート競技の認知度向上、体を動かすことの楽しさなどを知っていただくなどしたため、このプロジェクトの目的である本県からのスポーツ選手の輩出に繋がることを期待します。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

自分たちが中心となって計画して物事を進めるといった経験は、私達全員にとって初めてのものでした。また計画、周知の段階で予定外のこともあり、それを対処しながら進めていったことは貴重な経験となりました。例えばチラシの配布では、教育委員会の後援なしで配布のお願いが可能と教えていただいたのを、後援なしでも配布していただけると勘違いしたことで、想定よりも配布がうまくいかなかったことがありました。しかし配布をお願いする枚数を増やすなど次の方法を検討し、どうにか体験教室を開催することができました。このように計画を立てて実行する際に、最善策以外に次善策を用意する、他の方法を常に探りながら進めていくといったことを特に学びました。これらは、部としては四国インカレや四国学生選手権の主催をするときに、また各個人がこれから何らかの計画を立てる際に訳に立つと考えています。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

最も大きな反省点としては、計画を立てることが遅かったことです。そのため、計画

作成から周知、実施までの時間が短く、十分に周知をすることが出来ませんでした。一方で、県内では初めての取り組みとなるボートの体験教室を開催し、興味を持ってくれやすい層やどの程度参加者が見込めるか、参加しやすい時間帯、参加しての意見など限定的ながら調査することができ、今後同様のイベントを開催する上で参考となるデータが得られました。今後は同様の体験教室を定期的に開催することを目指し、そのための課題の洗い出しを行います。

本プロジェクトを開催したことで、香川大学の認知度の向上、地域のスポーツ振興、ボート競技の普及に少しでも貢献できれば幸いです。また、参加していただいた方が今後ボート競技をはじめとする何らかのスポーツに取り組みれていくことを期待したいと思います。

最後になりましたが、本プロジェクトは香川県ボート協会の方々や、教育委員会の方々に多分にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

7. 実施メンバー

代表者	溝渕 久哲	(工学研究科 1 年)		
構成員	池田 昂一郎	(工学部 2 年)	熊野 圭馬	(工学研究科 1 年)
	手嶋 真央	(工学部 4 年)	山本 実沙紀	(工学部 4 年)
	穴吹 玲菜	(工学部 2 年)	大田 佳奈	(工学部 2 年)
	浅野 祐	(工学部 2 年)	松井 祐樹	(工学部 2 年)
	宮田 嘉人	(工学部 2 年)		